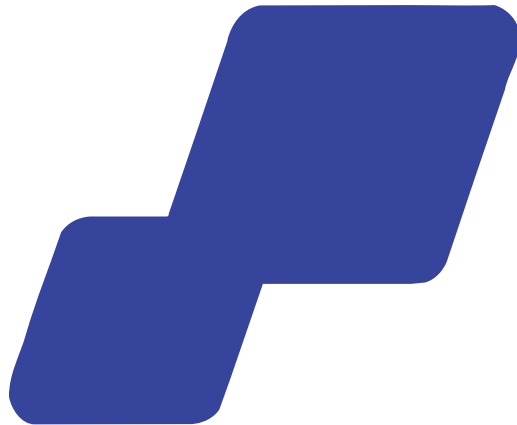


滋賀大学大学院
教育学研究科（修士課程）の案内

2015



Graduate School of Education
SHIGA UNIVERSITY

目 次

1. 教育学研究科の設置目的と趣旨	1 頁
2. 教育学研究科のアドミッションポリシー	1 頁
3. 教育学研究科の沿革	1 頁
4. 教育学研究科の概要	2 頁
(1) 学校教育専攻	
(2) 障害児教育専攻	
(3) 教科教育専攻	
5. 教育学研究科の特色	3 頁
(1) 現職教員の受け入れ	
(2) 昼夜間開講制	
(3) 長期履修学生制度	
(4) 専修免許状の取得	
(5) 教育職員免許状（一種）取得のための学部受講科目授業料免除制度	
(6) 外国人留学生に対する成績優秀者の授業料免除	
6. 教育学研究科における教育・研究の概要	5 頁
(1) 学校教育専攻	
(2) 障害児教育専攻	
(3) 教科教育専攻	
(4) 教員スタッフ一覧	
(5) 最近の修士論文題目一覧	
7. 教育学研究科における教育方法等	16 頁
(1) 教育, 研究指導	
(2) 授業	
(3) 修了の要件	
(4) 修業年限	
(5) 学位の授与	
8. 大学院説明会	17 頁
9. その他	17 頁
(1) 教育学研究科に関する問い合わせ先及び学生募集要項請求先	
(2) 入試情報ホームページ	
(3) キャンパスの案内	

滋賀大学大学院教育学研究科（修士課程）

1. 教育学研究科の設置目的と趣旨

本学大学院教育学研究科は、学部における教養的並びに専門的教育の基礎の上に、時代の進展に対応できる教員としての専門的学識及び実践的能力を育成すること、並びに現職教員の専門的機能のいっそうの向上を図ることを目的とし、教育現場や地域社会に開かれた大学院として、平成3年4月に設置されました。以来今日まで、一貫して滋賀県を中心に学校教育を担う人材を輩出してきました。常に地域の教育の中核的機関として、附属学校園はもとより地域の学校園との連携のもとに、実践的指導力の養成に力を注いでいます。ここ数年来は、学校教育に加えて、情報教育や環境教育といった現代的な課題に対する教育研究を推進させながら、高度に専門的な教育的素養を備えた地域人の育成を視野に入れ、教育研究体制のいっそうの充実をめざしています。

我が国の学校教育は大きな転換期を迎えていることから、学校及び教師への期待はこれまで以上に大きくなっており、学校を取り巻く状況の様々な変化に対応し、よりよい教育を自ら作り出していこうとする教育人の育成が急務となっています。そうした教育人の育成を実現するために、本研究科では、少人数指導を原則とした特論・演習・課題研究等において、きめの細かい指導を心がけています。また、これからの教師にはますます必要となる広い視野を育むために、高度に専門的であり、かつ学際的なディスカッションの場を教育研究の様々な場面に設け、我が国の21世紀を担う教育人の育成に力を入れています。

2. 教育学研究科のアドミッションポリシー

教育に関する社会的要請に応えるためには、学校、家庭、地域社会などとの緊密な連携のもとで、教育問題に対する幅広い情報を的確に受け止めることが求められます。その上で、複雑な要因で構成されている諸問題を多角的に分析・考察し、抽出された知見を教育実践の場に応用・展開させていくという総合的な力が要求されます。

本研究科は、根拠を必要とする研究の道程をいとわず、自己研鑽への意欲をもつ人材を求めており、また修了後も研究の成果を地域の教育に還元できる熱意のある人材を求めています。学部卒業者はもとより、現職教員をはじめとして様々な領域で地域教育に関わっている指導者や、高度な知識や技能を有して専門分野で活躍している社会人からも広く人材を求めています。

3. 教育学研究科の沿革

平成3年（1991）4月 滋賀大学大学院教育学研究科の設置

- ・学校教育専攻学校教育専修
- ・障害児教育専攻障害児教育専修
- ・教科教育専攻

国語教育専修・社会科教育専修・理科教育専修・

美術教育専修・英語教育専修

平成5年（1993）4月 教科教育専攻の整備（全専修完成）

数学教育専修・音楽教育専修・保健体育専修・

技術教育専修・家政教育専修

平成13年（2001）4月 学校教育専攻の整備と学校教育専攻及び障害児教育専攻の入学

定員増、学校教育専攻に情報教育専修と環境教育専修を設置

昼夜間開講制を実施

平成14年（2002）4月 教科教育専攻の入学定員増

4. 教育学研究科の概要

(1) 学校教育専攻

学校教育専攻は、教育の基礎と方法、発達と学習を中心とした分野、環境教育を中心とした分野、情報教育を中心とした分野を設けています。

(2) 障害児教育専攻

障害児教育専攻は、教育実践論を中心とした分野（教育方法学、障害児教育学）、神経心理学と発達臨床を中心とした分野（障害児心理学）及び障害児医学を中心とした分野（障害児生理学、障害児病理学）を設けています。

(3) 教科教育専攻

教科教育専攻は、それぞれの専門分野に教科教育学、教材開発及び授業研究を置き、教科専門領域の実践的理論的な教育研究を体系化できるようにしています。

専攻	専修	分野	入学定員
学校教育	学校教育	教育学（教育史）、学校経営、教育社会学、教育方法学、教育心理学、発達心理学、学校カウンセリング、幼児教育	18名
	環境教育	環境教育総論、環境教育方法論、湖沼・地域環境教育論	
	情報教育	情報教育基礎論、情報教育方法論、情報教育応用論、教科情報教育方法論	
障害児教育	障害児教育	障害児教育、障害児心理、障害児生理	5名
教科教育	国語教育	国語科教育、国語学、国文学、漢文学、書道（書写を含む）	42名
	社会科教育	社会科教育、歴史、地理、法律、社会学、政治学、経済学、倫理・哲学	
	数学教育	数学科教育、代数学、幾何学、解析学・応用数学	
	理科教育	理科教育、物理、化学、生物、地学	
	音楽教育	音楽科教育、声楽、器楽、作曲・指揮法、音楽学	
	美術教育	美術科教育、絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術理論・美術史	
	保健体育	保健体育科教育、体育学、運動学、学校保健	
	技術教育	技術科教育、機械、電気、木材加工	
	家政教育	家庭科教育、食物学、被服学、住居学、保育学、家政一般	
	英語教育	英語科教育、英語学、英米文学、外国語・外国文学	
合 計			65名

5. 教育学研究科の特色

(1) 現職教員の受け入れ

・大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例を適用し、以下の3つの形態で現職教員等を積極的に受け入れています。(詳細は16頁)

- ① 現職派遣教員
- ② 大学院修学休業制度による派遣教員
- ③ 派遣教員以外の現職教員, 社会人等

・現職教員等に対しては特別入学試験制度を採用しています。

現職教員等は特別入試での受験ができます。また、一般入試での受験の場合は、外国語試験を研究論文・報告の概要及び研究計画等をもって代替できます。

(2) 昼夜間開講制

派遣教員以外の現職教員, 社会人等は、修学年限の全期間を通じて、平日の第6時限(18時00分～19時30分)と第7時限(19時40分～21時10分)や土曜日、土・日曜日または夏季・冬季休業期間中の集中講義を受講して必要な単位を修得することができます。

(3) 長期履修学生制度

長期履修学生制度は、職業を有している等のために標準の修業年限で修了することが困難な学生を対象としています。事情に応じて標準の修業年限(2年)を超えて一定の期間(3年または4年)にわたり計画的に教育課程を履修し修了することにより学位を取得することができます。長期履修学生として認められた場合の授業料は、2年間(標準の修業年限)分の授業料総額を、あらかじめ認められた一定の修業年限で除した額をそれぞれの年に支払うこととなります。

(4) 専修免許状の取得

所要の基礎資格(幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校および特別支援学校教諭の一種免許状)を有する者は、教育職員免許法に定める所定の単位を修得することにより、それぞれ専攻・専修に応じた専修免許状を取得できます。

専攻	専修	専修免許状の種類及び教科
学校教育専攻	学校教育専修	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教諭専修免許状 ・小学校教諭専修免許状 ・中学校教諭専修免許状(国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 保健, 技術, 家庭, 職業指導, 英語) ・高等学校教諭専修免許状(国語, 地理歴史, 公民, 数学, 理科, 音楽, 美術, 工芸, 書道, 保健体育, 保健, 家庭, 情報, 職業指導, 英語)
	環境教育専修 情報教育専修	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教諭専修免許状 ・小学校教諭専修免許状 ・中学校教諭専修免許状(国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 保健, 技術, 家庭, 職業指導, 英語) ・高等学校教諭専修免許状(国語, 地理歴史, 公民, 数学, 理科, 音楽, 美術, 工芸, 書道, 保健体育, 保健, 家庭, 情報, 職業指導, 英語)
障害児教育専攻	障害児教育専修	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校教諭専修免許状(知的障害者・肢体不自由者・病弱者)

教科教育専攻	国語教育専修	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教諭専修免許状 ・小学校教諭専修免許状 ・中学校教諭専修免許状（国語） ・高等学校教諭専修免許状（国語，書道）
	社会科教育専修	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校教諭専修免許状 ・中学校教諭専修免許状（社会） ・高等学校教諭専修免許状（地理歴史，公民）
	数学教育専修	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教諭専修免許状 ・小学校教諭専修免許状 ・中学校教諭専修免許状（数学） ・高等学校教諭専修免許状（数学）
	理科教育専修	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校教諭専修免許状 ・中学校教諭専修免許状（理科） ・高等学校教諭専修免許状（理科）
	音楽教育専修	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教諭専修免許状 ・小学校教諭専修免許状 ・中学校教諭専修免許状（音楽） ・高等学校教諭専修免許状（音楽）
	美術教育専修	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教諭専修免許状 ・小学校教諭専修免許状 ・中学校教諭専修免許状（美術） ・高等学校教諭専修免許状（美術，工芸）
	保健体育専修	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教諭専修免許状 ・小学校教諭専修免許状 ・中学校教諭専修免許状（保健体育） ・高等学校教諭専修免許状（保健体育）
	技術教育専修	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校教諭専修免許状（技術）
	家政教育専修	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校教諭専修免許状 ・中学校教諭専修免許状（家庭） ・高等学校教諭専修免許状（家庭）
	英語教育専修	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校教諭専修免許状（英語） ・高等学校教諭専修免許状（英語）

(5) 教育職員免許状（一種）取得のための学部受講科目授業料免除制度

大学院教育学研究科に在学しながら，教育職員免許状（一種）を取得するために必要な学部の授業科目を履修する下記の（1），（2）の場合に，学部の授業科目の授業料が無料となります（一部の科目で履修が制限されている場合があります。また，1年間に履修できる単位数にも制限がありますので，免許状の取得を保証するものではありません。）。

- (1) 教育職員免許状を有しない方のために「教育職員免許状取得プログラム」があります。3年間の長期履修学生制度を利用し，小学校教諭一種又は中学校教諭一種免許状のどちらかのみ取得可能としたもので，学部受講科目授業料免除制度により，学部の授業科目が無料で履修できます。入学手続き時にのみ申請可能で，1年間に履修できる単位数は28単位以内です。
- (2) 上記（1）以外の方で教育職員免許状取得を目的とする場合にも，学部受講科目授業料免除制度が適用されます。入学手続き完了後，所定の期日までに申請していただきます。1年間に履修できる単位は20単位以内です。

(1) 及び (2) については、所定の手続きのうえ認められますので、詳細は教育学部教務係（電話：077-537-7707）まで照会ください。

(6) 外国人留学生に対する成績優秀者の授業料免除

外国人留学生の入学試験時の成績優秀者を対象として、授業料免除制度の中に、授業料の全額免除優先枠を設けています。

6. 教育学研究科における教育・研究の概要

(1) 学校教育専攻

① 学校教育専修

- ア. 生涯学習体系の中での学校教育を探究し、教育の基礎的諸科学の研究能力を養います。
- イ. 学校における教授学習過程や児童生徒の人間関係にみられる心理学的機序を解明します。
- ウ. 人格形成における親子関係、幼児期の初期経験に関する専門的知識を基礎として、学校集団への適応にかかわる生徒理解とカウンセリングの方法を習得します。

② 環境教育専修

- ア. 環境教育の指導者として必要な教育実践・研究能力の向上を図ります。
- イ. 学校教育・生涯学習における環境教育の内容・方法の理論と実践に関する専門的知識を修得し、カリキュラムや教材の開発、地域環境学習プログラムを設計できる力量をもった指導者の養成をめざします。
- ウ. 学部卒業者を対象として、学校教育・社会教育における環境教育の内容・方法の理論と実践の専門的知識を修得させ、滋賀県の地域環境教育に関する学習プログラムを設計できる力量ある指導者の養成をめざします。

③ 情報教育専修

- ア. 高度情報通信社会に主体的に対応できるための情報教育を担える専門教員を養います。
- イ. 情報に関する科学的な考え方、見方を養うことにより的確な情報教育、また教育の情報化を實踐できる技能と能力を持った教員を養成します。
- ウ. 情報教育の理論と実践についての深い見識を持った実践者を育成します。

(2) 障害児教育専攻

① 障害児教育専修

- ア. 障害児教育全般に関する諸問題を総合的に解決するための資質と能力を養います。
- イ. 附属特別支援学校と協力し、教育実践の分析・理論的再構成を行う能力を養います。
- ウ. 障害児の身体的・心理的諸要因に関する専門的知識と研究方法論を修得し、障害児の教育についての実践と研究の基礎的能力を養います。

(3) 教科教育専攻

① 国語教育専修

- ア. 国語教員として必要な教育実践・研究能力の向上を図ります。
- イ. 国語学、国文学、漢文学及び書道の各領域における高度の専門的知識及び研究法について国語教育の立場から総合的に把握させることをめざします。
- ウ. 地域的特色を研究し、それを国語教育に有効に活かすための教材開発を進めます。

② 社会科教育専修

- ア. 社会科教員として必要な教育実践・研究能力の向上を図ります。
- イ. 社会科の教科内容に関する学問研究の成果と方法を学ばせるとともに、人間・社会・文化への深い洞察に導き、教育について本源的に考究させます。
- ウ. 多彩な歴史と豊富な文化財を有する県であるという条件を活用して、地域社会研究を取り入れます。地域に関する認識を深め、教材を開発するとともに、地域に根ざす社会科教育の実践に資することをめざします。

③ 数学教育専修

ア. 算数・数学の教員として必要な教育実践・研究能力の向上を図ります。

イ. 教材開発研究や授業研究等の演習活動を通して、学校数学についての理論と実践の統合をめざします。

ウ. 代数学，幾何学，解析学の各領域の専門的知識と研究方法を学ぶことにより，研究・教育の能力向上をめざします。

④ 理科教育専修

ア. 理科の指導に必要な教育実践能力と研究能力の向上を図ります。特に身近な事物や現象と科学の基本概念とを関連づけることに習熟し，自主的に教材を開発・編成し，新しい理科の授業をデザインできる能力の向上を図ります。

イ. 物理学，化学，生物学及び地学の各領域における基本的概念の理解を深めるとともに，宇宙の起源から生物の進化に至る総合的自然観の形成をめざします。

⑤ 音楽教育専修

ア. 音楽教員として必要な教育実践・研究能力の向上を図ります。

イ. 器楽，声楽，作曲，音楽学の各領域における専門的技能や知識を深めることにより，芸術文化への深い洞察に導き，総合的な研究・教育能力の向上を図ります。

ウ. 初等・中等教育における音楽教育の内容や方法について深く学ぶことにより，教材開発や授業研究などの実践的能力の向上を図り，学校における芸術教育に資することをめざします。

⑥ 美術教育専修

ア. 美術教育の内容を教育の現代的課題の中で捉え直すとともに，美術教師として必要な教育実践研究能力の向上を図ります。

イ. 美術教育の根源について考察し，人間の尊厳と芸術文化への洞察を深めます。

ウ. 美術教育の立場から，表現の諸領域及び美術理論・美術史における高度な専門的知識と方法論を総合的に把握することをめざします。

⑦ 保健体育専修

ア. 学校体育の諸問題を総合的に究明し，現代社会に対応する保健体育科教育の実践に資することをめざします。

イ. 初等体育・中等保健体育科教育の内容を深めるとともに，関連する体育・スポーツ・健康諸科学の専門知識と研究方法を学び，保健体育教員としての教育実践・研究能力の向上を図ります。

⑧ 技術教育専修

ア. 技術教育の教員として必要な教育実践・研究能力の向上を図ります。

イ. 学校教育における技術教育の内容を深め，総合的な技術観の形成に基づく教材開発研究能力を養成します。

ウ. 情報社会の進展にみられるような科学技術の変革に対応できる教員としての能力・資質を養成します。

⑨ 家政教育専修

ア. 家庭科教員として必要な教育実践・研究能力の向上を図ります。

イ. 食物学，被服学，住居学，保育学及び家庭経営学分野における専門的知識と研究方法を学ぶことにより，研究・教育能力の向上を図ります。

ウ. 専門分野の理論と地域の特性を活かした新しい教材開発研究を行います。

⑩ 英語教育専修

ア. 英語教員として必要な言語能力の向上を図り，英語教育に関する総合的研究能力を養います。

イ. 現場における英語教育の諸問題を理論的に究明し，教育実践力の向上を目指します。

ウ. 英語学，英米文学，英語科教育の各領域における専門的知識と研究方法を学ぶことにより，研究・教育の能力を養います。

(4) 教員スタッフ一覧 (2014年4月現在)

■ 学校教育専修

井上 毅 教授	知識の構造とその処理過程に関する認知心理学的研究
奥田 援史 教授	就学前教育の方法に関する研究
喜名 信之 教授	近代教育思想の歴史的研究
兒玉 典子 教授	胎児の記憶と出生後の母子愛着形成
菅 眞佐子 教授	乳幼児期の子どもの概念や思考の発達, 発達の社会的構成
三輪貴美枝 教授	ドイツを中心とした, 「教育」概念の成立と展開についての研究
若松 養亮 教授	青年期の進路意思決定過程の解明と支援
渡部 雅之 教授	視点取得を中心とする認知発達研究
芦谷 道子 准教授	子どもの心身の問題にまつわる臨床心理学的支援
田中 裕喜 准教授	「主題 — 探求 — 表現」型の教育・保育実践に関する人間学的研究
堀江 伸 准教授	(1) 授業とコミュニケーション過程の研究 (2) 教師の「実践的思考」とその形成に関する研究

■ 環境教育専修

市川 智史 教授	環境教育の理念, 目的・目標論, カリキュラム論および参加体験型手法を主とした環境教育プログラムの開発
久保 加織 教授	食生活と環境および食育に関する研究, 食文化に関する研究, 食嗜好に関する研究
早川 洋行 教授	社会学説・社会学理論, 地域行政・地域政策・地域生活に関わる諸問題
松田 隆典 教授	産業化と都市化の地域環境論的研究とその教材開発
與倉 弘子 教授	繊維製品の性能評価, 繊維リサイクルに関する研究, 衣生活と環境教育に関する教材開発
石川 俊之 准教授	湖沼を中心とした生態学および環境科学
三田村緒佐武 特任教授	生元素化合物の水圏における循環, 水環境教育の研究

■ 情報教育専修

齋藤 浩文 教授	論理学・数学の哲学および言語哲学の諸問題の研究
服部 昭尚 教授	観察に基づいた情報収集と統計解析, 生息地の構造解析
穂積 俊輔 教授	数値シミュレーションによる銀河の形成と進化の研究
松原 伸一 教授	情報教育における教育内容・教育方法に関する情報学的研究
右田 正夫 教授	ロボットと動物による行動獲得に関する研究
水上 善博 教授	コンピュータシミュレーションによる現象の解析
岩井 憲一 准教授	教育活動を支援する知的システムに関する研究

■ 障害児教育専修

江原 寛昭 教授	障害児病理, 障害児医療, 発達障害の発生の遺伝メカニズム等の基礎的研究と疫学的研究
黒田 吉孝 教授	子どもの発達障害, 例えば, 知的障害とか, 自閉症等障害についての理解を進めるための方法, 障害間の関係の研究, アセスメントと教育支援の関連性
近藤 文里 教授	軽度発達障害児, および頭部損傷後遺症児に関する心理学的理解と教育的支援
白石恵理子 教授	(1) 障害児・者のライフサイクルと発達保障実践 (2) 乳幼児, 学齢障害児, 青年・成人期障害者の発達診断・発達相談
窪田 知子 准教授	通常学校における特別支援教育, 多様な教育的ニーズとインクルーシブ教育
窪島 務 特任教授	学習障害を中心に発達障害児の読み・書き・計算障害のアセスメント, 診断, 指導法の理論及び実践的研究, 特別ニーズ教育 (special needs education) の理論及び国際比較

■ 国語教育専修

中村 史朗 教授	制作 (漢字を中心とする), 中国書道史
吉川 栄治 教授	古今集を中心とした平安時代和歌史の研究
高橋 幸平 准教授	横光利一を中心とする近代文学作品と理論の研究
二宮美那子 准教授	中国唐代文学を中心とした, 私的空間 (園林) を描く作品の研究
牧戸 章 准教授	「ことばの学び」の生成に関する研究
松丸 真大 准教授	言葉の習得や変化に関する研究

■ 社会科教育専修

宇佐見隆之 教授	日本史学 (鎌倉時代から江戸時代にかけての社会・経済の研究)
加納 正雄 教授	(1) 経済思想 (2) 小中高等学校の経済教育
岸本 実 教授	(1) 社会科における概念や探究方法とその教育評価 (2) 米国の社会科カリキュラム (3) 環境教育, 市民教育, 開発教育
齋藤 浩文 教授	現代哲学 (特に言語哲学, 数学・論理学の哲学)
早川 洋行 教授	社会学説・社会学理論, 地域行政・地域政策・地域生活に関わる諸問題
松田 隆典 教授	産業化と都市化に関する社会・経済地理学的研究
神崎 宣次 准教授	応用倫理学を中心とする現代倫理学全般 (環境倫理学, ロボット倫理学, 研究者倫理学など)
馬場 義弘 准教授	(1) 日本政治史 (近現代) (2) 滋賀県の近現代史
渡邊 暁彦 准教授	(1) 統治システムの比較憲法学的研究 (2) 学校教育と法
川口 広美 講師	(1) 社会科カリキュラム開発研究 (2) シティズンシップ教育 (3) 英国の社会系教科カリキュラム

■ 数学教育専修

神 直人 教授	2枚の円い紙を何ヶ所も同じ所で切りそこで互い違いに貼り合せると複雑なものができる, それが研究対象
杉江 徹 教授	アフィン代数多様体の分類
鈴木 宏昌 教授	非線形現象の解析
高澤 茂樹 教授	数学教育における教師と子どもの認識に関わる研究
長谷川武博 講師	有限体上の関数体の塔の数論的研究
渡邊 慶子 講師	数学的理解の促進場面に関する研究

■ 理科教育専修

糸乗 前 教授	細胞表面の構成成分(複合糖脂質)の構造解析及び生化学的機能解析
神山 保 教授	(1) 複雑液体におけるパターン形成とダイナミクスに関する研究 (2) 複雑ネットワーク解析の応用に関する研究
原 博一 教授	天然水中の溶存化学物質の形態別分析法に関する研究
藤岡 達也 教授	(1) STS(科学・技術・社会相互関連)教育, 環境教育, 防災教育を取り入れた理科教育の研究 (2) 地域や社会教育施設と連携した理科教育プログラム, 教員研修の開発
古橋 潔 教授	(1) 下等真核生物の環境ストレスに応答するメカニズムの解析 (2) 動植物の代謝関連酵素の生化学的研究
大山 真満 准教授	太陽面現象や構造に関する研究
加納 圭 准教授	科学コミュニケーションに関する研究
恒川 雅典 准教授	放射光等を利用した電子分光による強相関係化合物や高機能性材料の電子状態・磁気状態の研究
石上 三雄 特任教授	(1) 真正粘菌変形体の収縮力発生装置とその調節機構 (2) 琵琶湖プランクトンなど生物領域の教材開発

■ 音楽教育専修

犬伏 純子 教授	ピアノ作品の解釈とその演奏法, 指導法について
杉江 淑子 教授	(1) 学校および学校外の音楽教育の社会学的研究 (2) 音楽科教育の教材内容論と教材開発
林 睦 教授	(1) 地域と連携した音楽教育 (2) 応用音楽学
若林 千春 教授	神話としての儀式空間における音楽作品の創作・・・「人間の内なる自然」と「人工の夢想あるいは理念の幻影」との狭間
渡邊 史 准教授	(1) 舞台における歌唱表現 (2) 声と言葉, および歌唱の効果的な基礎訓練法について
中根 庸介 講師	(1) オーボエを中心とした木管楽器奏法の研究 (2) 管楽アンサンブルの演奏法, 指導法

木川田 澄 特任教授	(1) オペラに於ける発声法, 歌唱法 (2) ドイツ歌曲の歌唱法と解釈
------------	---

■ 美術教育専修

大嶋 彰 教授	絵画制作及び近代・現代美術の理論的考察を通じた絵画教育の研究
橘 美知子 教授	創造的意識体験を促す鑑賞制作教材の研究
谷田 博幸 教授	イギリスを中心とする西欧近代美術史
新関 伸也 教授	美術教育におけるデザイン及び鑑賞の実践的研究
藤田 昌宏 准教授	具象的な立体表現を中心とする現代美術及びアートを通じたワークショップ
世ノ一善生 准教授	タイポグラフィを中心としたグラフィックデザイン
隼瀬大輔 特任准教授	木・漆による工芸制作

■ 保健体育専修

辻 延浩 教授	体育(保健体育)科における課題解決的学習の授業づくりと学習指導・評価に関する研究
平井 肇 教授	スポーツに関わって現代社会で見られる現象や問題の分析と検討
三浦 幹夫 教授	スポーツ運動論: スポーツ運動の構造・意味およびその形成過程・変容についての探求
村山 勤治 教授	学校体育における武道(剣道)教育に関する研究
松田 繁樹 准教授	運動選手の姿勢制御特性に関する研究 子どもの足裏形態に関する研究
大平 雅子 講師	唾液バイオマーカーを用いたストレス評価に関する研究 就寝環境(光・香り・音楽等)デザインに関する研究

■ 技術教育専修

磯西 和夫 教授	合金粉末の加圧焼結における緻密化挙動と, 新しい金属材料の合成およびその特性について
松原 伸一 教授	教科教育における内容論および方法論に関する研究
水上 善博 教授	コンピュータシミュレーションによる物質の性質の予測に関する研究
岳野 公人 准教授	ものづくり学習における学習者の認知プロセスに関する研究

■ 家政教育専修

久保 加織 教授	食品の栄養価・嗜好性・機能性に関する研究, 食教育に関する研究
矢野 由起 教授	家庭科の学習指導内容や教育課程に関する研究
與倉 弘子 教授	最適な被服の設計のための素材性能の評価に関する研究, 衣生活教育に関する研究
田中 宏子 准教授	住環境・減災教育に関する研究

細谷 里香 特任講師	子どもの発達や保育者と子どもの関わりに関する研究
------------	--------------------------

■ 英語教育専修

岩上はる子 教授	イギリス文学, 英文学受容研究
大嶋 秀樹 教授	英語科教育, 神経言語学
板東美智子 教授	言語学, 英語学
林 直生 准教授	アメリカ文学・アメリカ文化研究

(5) 最近の修士論文題目一覧

■ 学校教育専修

- ・幼児期における協調運動能力と自己身体認識の関連
- ・教室空間における児童・生徒の関係性—いじめの根幹を探るエスノグラフィー—
- ・小学校1年生における心に響く道徳の時間の構築—「ドラマ」を取り入れた授業の実践—
- ・インドにおける児童労働の撲滅と教育支援
 - タミル・ナードゥ州 Boys Town Society の事例を手がかりにして—
- ・農業高等学校におけるキャリア教育に関する一考察
 - ソーシャルキャピタルの蓄積に着目して—
- ・学級集団の実践コミュニティ化に関する実践的試論
 - 社会力を高めあう学級づくりモデルの構築—
- ・藤樹の理念に基づく学習モデルの構築—自己実現としての「明德」に着目して—
- ・看護学生の自己教育力に関する一考察
 - 達成目標指向性及び自己調整学習方略との関連について—
- ・中国の大学生における達成目標指向性・認知的学習方略及び援助要請方略の関連について
- ・児童の役割取得向上を目的とした教育実践によるレジリエンス育成に関する心理学的研究

■ 環境教育専修

- ・ベトナム・ダナン市における環境保護に対する市民意識向上に関する研究
- ・泉水を素材とした中国済南市の小学生の環境教育プログラムの開発
- ・高校理科新設科目「科学と人間生活」の指導法の研究
- ・ふなずしの熟成過程における成分変化と風味に関する研究
- ・中国における揚げ調理の実態と落花生油の揚げ調理特性
- ・高島ちぢみの性能評価に関する研究
- ・中国福建省福州市における文化財の開発と保全
- ・中国人留学生の食意識および食生活環境
- ・日本で学ぶ留学生の環境意識と環境教育
- ・小学校における学校ビオトープを活用した環境学習プログラムの提案
- ・「やまのこ」事業を活用した環境学習プログラムの提案
- ・日本のディープ・エコロジー—前田俊彦の環境思想—

■ 情報教育専修

- ・新しい情報科教育を指向したカリキュラム開発に関する研究
－メディア研究・情報学研究をベースにして－
- ・小学校中学年を対象とした情報安全学習 Web 教材の開発と評価
- ・小学校校庭における野外学習の普及と衛星画像の活用
－教師のための野鳥観察マニュアルの作成－
- ・緑茶とアオバナに含まれる物質の抗酸化作用に関する理論的研究
- ・画像の色彩情報に基づく対話型作曲システム MUSCAT のオンラインシステム化に関する研究
- ・認知・協調的 e-Learning 環境 CoCoLo に関する研究
- ・情報学教育における協働学習支援環境の構築に関する研究
- ・仮想空間における個人の匿名性に関する基礎的研究
- ・二次元イメージ展開法を用いた言語活動の充実をめざした授業開発
- ・指導案オーサリングシステム TeaPoT の分散・大規模化に関する研究
- ・共通教科情報科における主体的学習支援に関する研究
－「望ましい情報社会の構築」を対象として－
- ・情報科における論理的思考を育成する授業展開に関する研究

■ 障害児教育専修

- ・発達年齢 3,4 歳頃の成人期知的障害者における労働と生活認識について
- ・1 次元可逆操作獲得期の道具的活動における意図理解と主体的関与に関する発達の研究
- ・アスペルガー症候群と診断された児童の算数指導
- ・小学 2 年生における書き言葉の発達の研究
- ・「軽度発達障害」の早期発見・早期支援における保健師の役割と専門性
- ・ことばの教室における軽度発達障害幼児と保護者への支援に関する研究
- ・自閉症スペクトラム児の自己理解の特徴と自己肯定感を育てる支援
- ・2 歳前後における見たての成立過程に関する研究
- ・生涯学習からみた成人期知的障害者の「学び」への保障と支援の実際
- ・知的障害児のことばの発達を支える支援とそのあり方について
- ・小学校 3 年生における特別支援児童と周囲児童との関係づくり
- ・就学の接続期における子と保護者への支援と連携

■ 国語教育専修

- ・語られる身体にできること－「聞くこと」の学びの生成－
- ・中学校書写教育に関する一考察
- ・史的考察による国語単元学習の検証と展望
- ・古典語の従属節についての研究
- ・中学校における話しことば指導の研究
- ・本阿弥光悦の文芸理念とその継承について
- ・高等学校を中心とした古典教育の一考察
- ・「活用力」の観点からみた「読解力」に関する研究－小学校国語科における説明的文章を中心に－
- ・楽しく学習できる漢字語彙の効果的な指導方法－タイの大学生の日本語学習者を対象として－
- ・国語科における話し合い活動の研究－ディベートの意義と課題を中心に－
- ・高等学校古典教育における地域教材の意義
- ・現代文学作品を用いた敬語の学習材の開発－中国の大学における日本語学習者を対象として－
- ・日下部鳴鶴の書風形成－楊守敬および貫名菘翁からの影響－

■ 社会科教育専修

- ・初等・中等学校における韓国の経済教育―日韓の比較研究―
- ・タイ・アユタヤの市街地における市場（タラート）の構造
- ・平安朝期から室町期における日本の子ども観
- ・小学校社会科における多文化共生のための教材開発
- ・戦後の郷土教育運動と実践―奥丹後の渋谷忠男実践を中心に―
- ・彦根における住民主体のまちづくりの研究
- ・日本中世における職能民の実像
- ・高校における歴史授業の改善―加藤公明実践の検討―
- ・清川貞治の版画教育
- ・森本光瑛の平和教育について

■ 数学教育専修

- ・発展的な学習における既習知識の活用を促す能力についての研究
- ・コンピュータを学習の道具として利用した数学指導についての研究
- ・子どもの理解状況を捉える調査問題作成の視点
- ・整数の概念の拡張とその不定方程式の解放への応用について
- ・数学的コミュニケーションレベルの枠組みの構築とその利用
- ・特殊な平面曲線に関する研究
- ・算数・数学の理解を深めるつまずきの活用―理解の深化モデルの構築を通して―
- ・代数的・解析的側面からみた楕円曲線の理論と暗号・数論への応用
- ・様々な曲線と曲面の性質に関する研究
- ・二次不等式の理解の改善に関わる研究

■ 理科教育専修

- ・I H ヒーターの加熱原理―流布されている誤解の訂正―
- ・中学校理科における語句つながりとスモールワールド性
- ・発展的なプランクトン学習の企画、検討とそこで用いる映像教材の製作
- ・太陽フレアに伴う X 線プラズマ放出現象の研究
- ・天体望遠鏡の使用に関する教育教材の開発と検証
- ・糖鎖多様性を示すカイコ *Bombyx mori* 蛹の糖脂質構造の解析
- ・児童の考察力向上に資する理科学習デザイン
- ・科学的探究活動の導入とその効果―中学校理科授業での検証―
- ・ユムシ *Urechis unicinctus* の酸性スフィンゴ糖脂質の構造解析

■ 音楽教育専修

- ・日本における近代フランス音楽の受容―ピアノ演奏からの考察を中心に―
- ・音律の変遷とピアノの調律について
- ・演奏家育成のためのヴァイオリンの教授法―学習者と教師の観点から―
- ・もの派から学ぶ“作品のあり方”の可能性
- ・淡路人形浄瑠璃の伝承システムにみる教育の役割
―地域の学校や子ども会活動における郷土芸能の伝承と発展―
- ・エチュードの原点―クレメンティの教本を考察して―
- ・ベートーヴェンのピアノソナタ
―フォルテピアノとモダンピアノから考えられる演奏の可能性について―
- ・G. フォーレの作品における教会魔法について
- ・ドイツロマン派の歌曲について―その詩と音楽―

- ・学校音楽教育における地域との連携に関する研究
 - －音楽家との新たなコラボレーション授業の開発を中心として－
- ・リヒャルト・ワーグナーの音楽について－その楽劇における管弦楽の使用についての研究－
- ・声の可能性を探る－声優・モノマネ芸人に学ぶ－
- ・特別支援教育における音楽療法的視点を取り入れた音楽の学習活動に関する研究
- ・音楽科の授業改善のための授業分析－音楽科特有の教授行為に着目して－

■ 美術教育専修

- ・「オタク系文化」と美術教育
- ・子どものデザイン学習における相互行為と授業分析による実証的研究
- ・京都西陣の地域カラー人々のくらしとつながりの視点から－
- ・アーサー・ラッカムの挿絵研究－カラー印刷黎明期と‘Rackhamerie’をめぐる考察－
- ・多様なアイデンティティーに開かれた思春期の美術教育－不登校からの視点－
- ・日中の中学校美術教科書における鑑賞作品の比較研究
- ・生徒が主体的に取り組む美術鑑賞学習の研究
- ・妖精を求める時代
 - －英国ヴィクトリア朝における妖精の流行と現代ファンタジーブームとの比較考察－
- ・図工のカーその本質と意義－
- ・図画工作科の充実をめざして－子ども理解と関係性を重視した指導のあり方について－
- ・乱世の美－当世兜にみる世界観・メンタリティ・美意識－
- ・美的経験の認知に着目した美術鑑賞授業の提案
- ・児童の造形行為の読み取りと自己省察－中学年の造形遊びを通して－
- ・グラフィックによる情報伝達
- ・中学校美術科における協働的な学びに関する考察－自身の絵画制作を起点として－

■ 保健体育専修

- ・高等学校における睡眠学習教材の開発－保健体育科の実践による有効性の検討－
- ・初心者に向けた棒高跳指導の提案－小・中学生を対象とした実践例から－
- ・乗馬における基礎的研究
- ・部活動の在り方と今後の方向性－滋賀県における中学生サッカーの現状－
- ・中学校柔道授業における教師行動に関する事的研究
 - －生徒の形成的授業評価との関係から－
- ・小学校体育科における体づくり運動領域の「多様な動きをつくる運動」に関する実践的研究
- ・小学校体育授業における教師の反省的思考に関する実践研究
 - －アクション・リサーチの取り組みから見えてきたもの－
- ・ボート競技のトレーニングに伴う筋代謝及び筋形態の変化
- ・小学校体育科における体づくり運動領域の「多様な動きをつくる運動」の教材化に関する研究
- ・高校駅伝における競技力向上に関する基礎的研究－福島県の指導事例を中心に－

■ 技術教育専修

- ・問題解決による計測・制御学習における教材モジュールの開発
- ・知識基盤社会における技術分野の学習内容の体系化に関する研究
- ・情報技術教育における自己教育力の向上をめざした教育方法の開発
- ・統計的方法を用いた流れ中における繊維の配向の数値解析
- ・繊維懸濁液の流れ中における繊維の配向の数値解析
- ・将来に生かせる技術観を育む学習に関する基礎的研究－技術とものづくり学習を通して－
- ・音響センサーによる土砂移動の検知及び動態推定に関する研究

- ・児童期における栽培体験活動の実践およびシステムに関する研究
- ・情報教育カリキュラムの開発に関する研究
- ・全国の養護学校等における農園芸活動の実態調査とその効果に関する研究
- ・公民館が行う地域教育と専門知識を有する指導員に関する研究
- ・これからの学校教育における情報教育の充実

■ 家政教育専修

- ・琵琶湖産スジエビを用いた魚醬作り
- ・小学校家庭科における「家族」の学習指導に関する研究
- ・食事摂取量認識に関する研究—うつわに焦点をあてて—
- ・地域を組み込んだ技術・家庭科における授業開発
- ・小学校家庭科における栄養学習プログラムの開発
- ・住宅管理行為と住意識の地域特性に関する考察と教材開発
—滋賀県における住生活と風土との関わり—
- ・絹ちりめん布の風合い特性に関する研究
- ・教科間のつながりを重視した減災教育の可能性とカリキュラムの提案
- ・家庭科における被服製作実習が購入行動に及ぼす影響
- ・食品偽装と消費者市民社会に関する一考察—加工食品の期限に関する意識調査を通して—
- ・繊維製品のマテリアルリサイクルに関する基礎的研究
- ・学校における減災の実態と発災後の教育活動支援に関する研究
- ・ふなずしの嗜好性に関する研究
- ・中国の学校における食育に関する研究

■ 英語教育専修

- ・ Metaphorical Extension of Word Meanings
- ・ Lovesickness : A Search for Love and Self in Edna O'Briens Novels
- ・ A Study of *Where Angels Fear to Tread* : Encounter with the Different Culture
- ・『源氏物語』英訳研究—「物の怪」はどう伝えられたか—
- ・ Improving English Perception Skills by Double-speed Listening
- ・中学校における英語音読指導に関する研究
- ・日英語における事態の認知過程モデルと概言表現の特徴
- ・多読及び音読とコミュニケーション能力の関係について—明治期の英語の達人の検証から—
- ・言語意識を高める小学校外国語活動
- ・Honesty/Integrity と誠実—文化的類似性概念の体現化による分離から見る差異—
- ・『ブライトン・ロック』試論—ピンキーの反逆とその意味—
- ・ Spatial and Time Schematic Mechanisms between Correspond Verbs and Their Prepositional Phrases
- ・コミュニケーションの本質からみた小学校外国語活動の実践に関する提言

7. 教育学研究科における教育方法等

(1) 教育, 研究指導

- ① 大学院修士課程における教育は、専攻に応じ、教育上必要なものとして開設する授業科目の履修及び学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」とする）によって行われます。
- ② 学位論文及び修学その他学生生活上の指導・助言を行うために指導教員が配置されています。

(2) 授 業

① 学期（授業期間）

学期は春学期（4月1日から9月30日）と秋学期（10月1日から翌年3月31日）の2学期に区分されています。

② 授業時間帯

昼夜間開講制により、教育学研究科の授業時間帯は原則として、第1時限（8:50～10:20）から第7時限（19:40～21:10）までとし、現職教員等を含む学生の修学が容易になるように措置されています。また、土曜日に授業を開講するとともに、土曜日・日曜日や夏季・冬季休業期間等に集中授業を開講することにより、現職教員等の学生の修学が容易になるよう、時間割の流動的な編成を行っています。

各時限の授業の開始時刻及び終了時刻は、次のとおりです。

第1時限	8時50分～10時20分
第2時限	10時30分～12時00分
第3時限	12時50分～14時20分
第4時限	14時30分～16時00分
第5時限	16時10分～17時40分
第6時限	18時00分～19時30分
第7時限	19時40分～21時10分

③ 修学方法

開講授業科目表の年次配当に基づき、授業科目の中から、30単位以上を修得します。

ただし、現職教員等に対しては、大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例を適用し、現職教員等が高等教育を受ける機会を拡大するための措置を実施しています。

教育方法の特例措置の実施方法は次のとおりです。

ア. 現職派遣教員

修学年限のうち、第1年次は現職を離れて通常の昼間時間帯の履修を原則とし、課程修了に必要な30単位のうち24単位以上を修得するものとします。

第2年次は現職に復帰し、勤務しながら定期的あるいは集中的に授業・研究指導を受けて、単位を修得するとともに、学位論文を作成します。

イ. 大学院修学休業制度（公立学校の教員が、任命権者の許可を受けて、専修免許状を取得するため、国内外の大学院へ在学し、その課程を履修するため休業することができる制度）による派遣教員

昼間時間帯の履修を原則とします。

ウ. 派遣教員以外の現職教員, 社会人等

修了年限の全期間を通じて、平日の夜間または土曜日を中心に、定期的あるいは集中的に授業及び研究指導を受けることができます。

(3) 修了の要件

- ① 研究科に2年以上在学し、各専修で定められた授業科目30単位以上を取得し、学位論文を提出して、その審査及び最終試験に合格すること。
- ② 学位論文は、各専修に関する主題で、学校教育、障害児教育ないし教科教育の進展に寄与できる内容を有する学術論文であること。

(4) 修業年限

修業年限は2年とします。在学期間は4年をこえることができません。

(5) 学位の授与

大学院修士課程を修了した者に対しては、修士（教育学）の学位が授与されます。

8. 大学院説明会

日 時： 第1回 平成26年7月5日（土）13：30～15：00

第2回 平成26年8月2日（土）14：30～16：00

場 所： 第1回

滋賀大学大津サテライトプラザ

大津市末広町1-1 日本生命ビル4階（JR大津駅前）

第2回

滋賀大学教育学部（オープンキャンパスとして大学で行います。）

対 象： 関心のある方。どなたでも歓迎します。

内 容： 1. 教育学研究科（修士課程）の概要

2. 入学者選抜方法について

3. 修学方法

4. 個別相談

申 込： 参加希望者は、事前に、電話又はファックスにて入学試験係までお知らせください。
当日参加も可能です。

連絡先： 滋賀大学大学院教育学研究科入学試験係

〒520-0862 大津市平津二丁目5番1号

電 話 077（537）7711

F A X 077（537）7840

9. その他

(1) 教育学研究科に関する問い合わせ先及び学生募集要項請求先

〒520-0862 大津市平津二丁目5番1号

滋賀大学大学院教育学研究科入学試験係

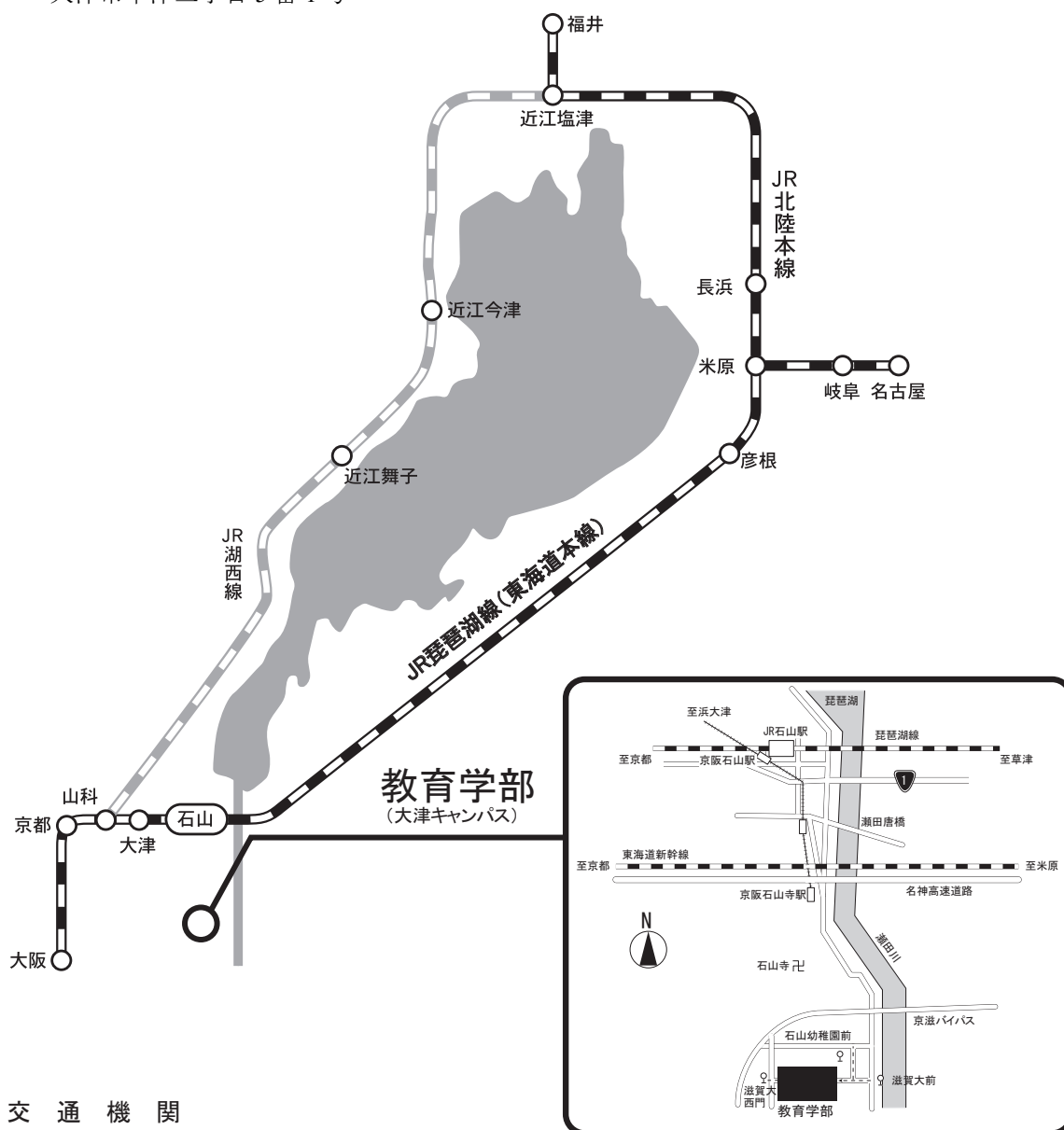
電話 077（537）7711

(2) 入試情報ホームページ

<http://www.shiga-u.ac.jp/admission/>

(3) キャンパスの案内

大津市平津二丁目5番1号



交通機関

「JR石山駅」下車

* 「JR石山駅」は琵琶湖線（東海道本線）です。誤って湖西線に乗らないよう注意してください。

- 京阪バス* 約15分「滋賀大前」下車，徒歩約8分
- 京阪バス** 約15分「滋賀大西門」下車，すぐ
- 京阪バス*** 約15分「石山幼稚園前」下車，徒歩約10分

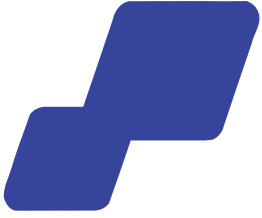
「京阪石山寺駅」下車

- 京阪バス* 約5分「滋賀大前」下車，徒歩約8分
- 京阪バス** 約5分「滋賀大西門」下車，すぐ
- 京阪バス*** 約5分「石山幼稚園前」下車，徒歩約10分

* ②新浜，④大石 行き

** ⑤②南郷中学校・新浜（石山寺・滋賀大西門経由），
⑤③千寿の郷・南郷二丁目東（石山寺・滋賀大西門経由），
⑤④南郷中学校・大石（石山寺・滋賀大西門経由） 行き

*** ①石山団地（石山寺経由）行き



Graduate School of Education
SHIGA UNIVERSITY